延喜式内名神大社

生島足島神社便り

第 56 号

ごあいさつ …… 2
令和四年 御柱大祭／御柱祭とは …… 3
令和四年 御柱大祭業務分担表 …… 4
御柱までの祭事・行事予定 …… 5
御柱大祭 …… 6
信濃の古社／生島足島神社の初詣 …… 7
初詣／だるま／お知らせ …… 8

QR コード
携帯電話、スマホにて簡単に
ホームページにアクセスできます。

QR コード
「参拝の作法と参拝順序」
まいぶれ上田･東御にアクセスできます。

第56号　令和3年12月　生島足島神社　上田市下之郷中池西701　TEL 0268(38)2755　FAX 0268(39)1515
公式ホームページURL　https://www.ikushimatarushima.com/

ごあいさつ

宮司代務者
池内宣裕

平素より生島足島神社を御崇敬戴いている氏子崇敬者の方々におかれましては、如何お過ごしでございますか。二年目のコロナウイルス禍の日々、ウイルスによりさまざまな被害を受けられた方に心からお見舞いを申し上げますとともに医療従事又昼夜終息対策等に尽力されている全ての関係方々に敬意を表す次第です。ワクチン接種も進み、発症予防や重症化を抑える決め手になることが期待され、徐徐に明るい光・希望が見えて来ていることは嬉しいことであります。

またこの夏、紆余曲折を経て七月二十三日に開会されました東京２０２０オリンピック・パラリンピックでは、二百を超える国と地域が参加して、其々白熱した試合が展開放映されました。日本選手団の史上最高メダル獲得数や世界の選手達の健闘を見るにつけ、多くの日本人がその姿を讃え感動したことと思います。

さて、当塩田地域でも「レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』～龍と生きるまち信州上田・塩田平～」の日本遺産認定、「上田電鉄別所線千曲川橋梁復旧に伴う全線開通」と明るいニュースが続く中、来年神社は愈々御柱大祭本大祭の年となります。

六年に一度、寅歳と申歳、七年目毎に祭行されます、この大祭は、当神社独自の歴史と伝統を守り乍、旧慣古例を重んじて、御諏訪様（下宮）の神輿渡御、御柱の奉曳、御柱建立等の祭儀を氏子・近郷近在川西十七ヶ郷始め崇敬者総出で祭行致します。

さらに大祭に際し、畏くも宮中から御幣帛を賜り厳粛に御神前に奉ります。（※1）

つきましては、氏子崇敬者多くの方々の御理解御厚誼、赤誠の御奉賛を戴き、諸儀滞りなく執り行えますよう何卒御協力の程お願い申し上げます。神社では一日も速く元の穏やかな日々に戻る事が出来るよう疫病退散を願い、私共神職が毎朝「疫病退散祈願祭」を執り行なっている次第です。

氏子崇敬者の方々には、大神様御祭神の御加護を賜り、明年が幸多き佳き年でありますよう御健勝御活躍を心よりお祈り申し上げ年末年始に向けての御挨拶と致します。

（※1）
長野県内では御柱祭に際し、諏訪大社（旧官幣大社）と生島足島神社（旧國幣中社）の二社が特別に宮中からの幣帛を賜ります。

令和四年　御柱大祭

御柱大祭実行委員長
松澤繁樹

晩秋の候、氏子崇敬者の方々におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。又平素は神社の諸行事に対しまして温かいご理解とご協力を戴き心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々なご苦労を強いられる生活が続いているかと拝察致します。コロナウイルス感染症の終息が見えない中、来年四月十六・十七・十八日と壬寅歳の御柱大祭を祭行する運びとなりました。前回までの御柱大祭のようには出来ないと思いますが知恵を出し合い地域の活力と絆を深め皆が楽しめる御柱にしたいと思い準備を進めています。つきましては大変厳しい状況のなかですが広くご奉賛の浄財を仰ぎ諸儀滞りなく執り行いたくなにとぞ崇敬者の方々のなお一層のご理解とお力添えを戴きたくお願い申し上げる次第です。

末筆ではございますが各位の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

御神木本見立て

九月五日に東山山中にて、斎主の清祓を大世話人・木遣衆・自治会理事者・森林組合職員等が受けた後、多くの報道関係者の取材を受けながら、御柱となる四本の大木に、注連縄を廻おして「上ノ宮一之御柱」と記した板を始め順次四枚据え付けました。

本見立て

御柱祭とは

宮司代務者
池内宣裕

生島足島神社の「御柱大祭」は、諏訪大社と同様六年に一度（七年目毎）、寅歳・申歳に祭行されます。

御柱祭の意味、起源についても、長野県内各社各地域により様々で定かではなく、安易に斯斯であるとは云えません。諸説ある中、当神社当地に伝わる言い伝えから諏訪大社とも比較して説明したいと思います。

当神社下宮（諏訪神社）の御祭神である御諏訪様（建御名方富命）が出雲から諏訪の地へ向かわれる途次、小県郡塩田郷東塩田に鎮座する生島大神足島大神に御柱を奉られたことが始まりと伝えられています。御諏訪様御一団はその後、雪解けを待って春、大門峠、和田峠、武石の峰を越え諏訪地方へ行かれたと云われています。

御柱は、御社殿を建替奉献すること、あるいは四隅に立て清浄な聖域を定めるためだとか、山または天からの御神霊をお迎えするものであり神霊の依代と考えられる等、そのどれもが当てはまるように思われます。

参考

	諏訪大社	生島足島神社
樹種	樅（モミ）	赤松（アカマツ）
長さ	五丈五尺（約十六メートル）	五丈五尺五寸（約十七メートル）
先端	冠落としをする（尖らせる）	冠落としをしない（尖らせない）
表皮	剥がす（下社）・剥がさない（上社）	剥がさない
奉建	諏訪大神のために氏子住民が建てる ※県内各御分社も同様	上宮壱之御柱・弐之御柱は諏訪大神に代わって氏子住民が建てる 下宮壱之御柱・弐之御柱は氏子住民が建てる

参考文献　『諏訪大社』発行　株式会社 學生社／『おんばしら』発行　信州・市民新聞グループ

令和四年御柱大祭業務分担表

大祭委員長　松澤繁樹

相談役　平田寿一・関茂

大祭顧問　伊藤喜造・依田嘉重・依田延嘉

第一回御柱世話人・氏子総代会開催

八月二十一日に新たな御柱世話人二〇名と氏子総代二〇名（総勢四〇名）により、第一回御柱世話人・氏子総代合同会議が開催され、御柱大祭委員長松澤繁樹氏子総代長より「コロナ渦の中、実施規模は見通せない部分も多いが準備はして行く」等の挨拶の後、池内宣裕宮司代務者より全員が御柱大祭世話人を委嘱されました。また、世話人の中から別表の通り大世話人（副委員長）が選出され、担当部署が決まり来年度の御柱大祭に向けて準備に入っていきます。氏子崇敬者方のご支援・ご協力をお願いいたします。

庶務

副委員長　宮入　孝夫

世話人　南波　健一

世話人　金井　栄三

世話人　南波　晋

世話人　與川　富樹

部長（氏子総代総務部長）　永井　憲幸

世話人（氏子総代）　花木　忍　村山　生夫

渉外土木

副委員長　濵　信男

世話人　宮下　嘉一

世話人　田村三智成

世話人　藤田　康一

世話人　上野　隆夫

部長（氏子総代広報部長）　高梨　勝緒

世話人（氏子総代）　村山　辰夫　田村　民生　南波　幸信

会計

大世話人　関弥　洲武

世話人　清水　修

部長（氏子総代経理部長）　児玉　晋

世話人（氏子総代）　宮原　栄一郎　永井　昌宏

物品

大世話人　田村　信広

世話人　水口　進

世話人　宮入　一喜

世話人　横関　正知

部長（氏子総代祭典部長）　横山　正直

世話人（氏子総代）　島田　信夫　横関　正幸　依田　一幸　小宮山　幸男

営繕

大世話人　土屋　秀幸

世話人　小林　茂夫

世話人　斉京　英一

世話人　大田　治幸

部長（氏子総代管理部長）　木本　昭征

世話人（氏子総代）　斎藤　正彦　白砂　一彦　市川　清志

御柱までの祭事・行事予定

根切り　（十二月四日）

関係者全員お祓いお清めを受けた後、斧方鋸方が御柱木に忌斧・忌鋸を入れ、森林組合担当者協力により伐採を行います。

綱縒り　（二月十三日）

氏子総出で境内にてお祓いお清めを受けた後、世話人号令の元、大祭に用いる全ての曳き綱・追い綱を奉製します。

綱縒り

梃子棒伐出し（二月二十日）

世話人総員お祓いお清めを受けた後、東山山中において梃子棒に適した直径約二寸五分の木を凡そ三百五十本伐り出します。

山出し　（三月六日）

清祓式執行後、氏子総出で東山から各御柱を御旅所まで奉曳します。

山出し

宵宮祭　（四月十六日）

御本社（上宮）から御諏訪様（タケミナカタノミコト）の神輿が御旅所社まで渡御され、妃神の八坂刀賈命（ヤサカトメノミコト）と一晩を共にされます。

本大祭　（四月十七日）

御旅所社にて一晩泊られた御諏訪様が御柱と共に下宮（摂社）に還られます。

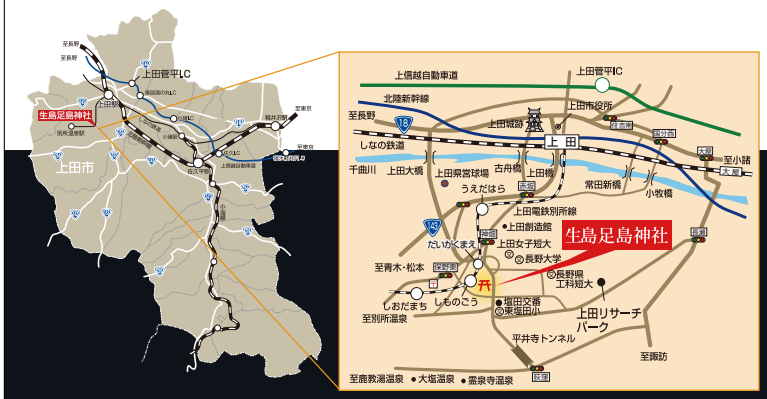
宵宮祭

奉建祭　（四月十八日）

氏子総出でお祓いお清めを受けた後、「上ノ宮壱之御柱」から順に境内の四隅に御柱を奉建します。

本大祭

奉健祭



延喜式内名神大社
生島足島神社
〒386-1211 長野県上田市下之郷中池西701
電話0268(38)2755 ファクシミリ0268(39)1515
大祭事務所/電話0268-38-3055
http://www.ikushimatarushima.com

信濃の古社

生島神・足島神は神代の昔からこの地にお鎮まりになっていました。出雲を離れ諏訪に向かう建御名方富命（たけみなかたとみのみこと）は塩田の地に立ち寄られ、敬意を表すため米粥をお供えしました。現在も続いている、お遷（うつ）り神事・御籠祭（おこもりさい）の由来となっています。

延喜式には名神大社（みょうじんたいしゃ）として記されています。歴代天皇を始めこの地を治めた北条氏、武田氏、真田氏、上田藩主の崇敬はことのほか篤く、現在の諏訪社は真田信幸公の寄進再建によるものです。

皇居内にもお祀りされていて、古（いにしえ）には遷都の際、二柱を奉（たてまつ）る神事があり明治以降、國幣中社（こくへいちゅうしゃ）の社格となりました。その崇敬は県内を始め全国に広まり、「生島さま・足島さま」と親しまれています。

（池内）

御本社（上宮）

摂社諏訪社（下宮）

生島足島神社の初詣

権禰宜　宮原　久

信濃の国の二ノ宮として古来より尊崇を受けてきました生島足島神社のお正月の境内は、近隣、遠方たくさんの参拝者の方々が、一年初めの大神の御神徳をいただこうとお参りされ、大変賑々しくあります。

～生島足島神社のシンボル「ご神橋」～

生島足島神社御本社は周りが御神池に囲まれます御神島の内に御鎮座し、そこにお参りするには石の太鼓橋を渡りお参りします。その横に朱色に映える御神橋が架かっています。普段は注連縄にて結界し、一般の方々は渡ることはできません。毎年十一月、翌四月の御渡神事（みわたりしんじ）にて摂社諏訪神社（下宮）に鎮まられます諏訪の神様を年二回お渡しするための特別な橋であります。ただし正月期間中は特別に御神橋を開放しまして、一般の参拝者の方々も渡ることができます。

～令和四年は壬寅歳　御柱大祭祭行～

毎寅年、申年に執り行われる御柱大祭、来る令和四年壬寅歳は生島足島神社で最も重儀であるこの大祭が執り行われる年です。氏子崇敬者のご奉仕により神山より曳行されてきます四本の御柱を境内にお建て申し上げることにより生島足島神社の御神威が最も強まる年でもあります。来る令和四年氏子崇敬者、参拝者方におかれましては、大神様の御神徳を益々いただかれまして平穏無事、御安泰の年となること御祈念申し上げ多くの方々のお越しをお待ち申し上げております。

昨年からのコロナウイルス禍の対策として、参拝の皆さんにご安心してお参り戴きますよう「三密」の回避、換気と消毒の徹底、検温の実施を執り行い、令和四年のお正月も同様に清々しく平穏にお参り戴きますよう感染予防対策に万全を期して参拝者の皆さんをお出迎え致します。

御神橋を渡る参拝者

初詣（縁起物）

巫女　横山　美早紀

新しい生活様式が浸透し戸惑う事も多い毎日ですが、当神社では参拝者の方々に少しでも楽しんでいただけるよう、令和四年のお正月も新作を含めた様々な授与品をご用意しております。

御守の新作は、夏から授与している「麻御守」がございます。

麻はお祓いの祭具である大麻（おおぬさ）にも使われており、清めの御利益もある身守として新しい年を迎えるにあたり、ぜひお受けください。サイズは少し小さめで、生成色（クリーム色）・紫色・紺色の三色からお選びいただけますので、年齢・性別問わず身に付けやすい御守となっております。

縁起物授与所(神楽殿)

また今年から授与開始しました「疫病退散守」「五穀豊穣守」も頒布しております。

縁起物では毎年、巫女・女子職員による手作りの破魔矢を頒布しておりますが、今年は手作り福枡もご用意いたしました。若い方にも手にとっていただきやすいようにデザインを考えた、置き型で華やかな福枡です。（一つ一つ丁寧に奉製している為、数に限りがございます）

今年も神社ではコロナウイルス感染予防対策をし、多くの方々をお迎えする準備をしております。

ぜひご家族お揃いでのご参拝をお待ちしております。

縁起物

だるま

生島足島神社の新年福ダルマは、他販売店のダルマと異なり、ご祈祷・お祓いし、御神札・福章と合わせて授与致します。

また、四号以上のダルマを希望する方々には、「目入れと巫女によるご家族への清祓い」を無料にて行います。

昨年より、ダルマの授与は、歌舞伎舞台（ダルマ授与所）において、コロナウイルス感染予防対策を万全にして、取扱いいたします。

ダルマの授与所(歌舞伎舞台)

取扱時間

元旦～五日　朝八時　～午後四時迄

土日・祭日　朝八時半　～午後三時迄

平日　朝八時半　～午後二時迄

（注意…終了時間は天候等状況により異なる場合が有りますので早めの参拝をお願いいたします。）

なお、旧価格での「予約名入れだるま」は十二月二十日が受け付け締切りとなりますので至急申し込み願います。

写真室からのお知らせ

写真室では成人式のお写真・振袖レンタルをお受けしております。

お早めのご予約をお勧めいたします。

また、卒業式の着物・袴のレンタルもございます。

節目の記念はぜひ、お写真を残しましょう。

写真室　TEL〇一二〇―八六二―七五三